



神戸中部支部では、昨年度より新型コロナウイルス感染症の影響により地域での活動を見合わせていましたが、令和3年度は2か所の拠点と、出前隊1か所で活動が再開できました。その様子をご紹介します。

出前隊 甲栄台結核ハイリスク者健診

北区保健センター主催の結核健診時に骨密度と血管年齢の測定を行いました。緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルス感染者数の少ない11月に感染対策に留意し実施しました。特に血管年齢測定が人気で、実年齢との差に興味を持たれていました。骨密度測定では、低値の方には受診勧奨や日常生活での工夫点などをお伝えし、ご自宅でも取り組んでいただけるよう声をかけていきました。42名の方が参加され、中には「まちの保健室」の再開を楽しみにしていたという声もあり、とても嬉しく感じました。ボランティアスタッフにとって、地域の方の健康への思いをきくことができる貴重な時間でした。



医療法人川崎病院

世界的に流行しているコロナの影響で、この2年間は「まちの保健室」の開催されておりませんでした。しかし、令和3年11月10日に当院で開催された「世界糖尿病デーin川崎病院」に「まちの保健室」がコラボレーションさせていただき開催することができました。

感染状況を鑑みながら、規模を大きくしない、などの制約がある中で準備を行い、クラスターなども起こすことなく、外来受診の患者や荷物を届けにきていた家族に声をお掛けし7名の相談を受けました。コロナ禍の影響で普段の食生活や運動習慣などを伺い、生活習慣を振り返るきっかけになったと思います。

普段病気を抱えておられる患者としかお話しする機会がない中で、健康に気をつけておられる方のお話を伺えたことで、参加したボランティアからは「こちらがリフレッシュになった」との声もありました。開催者、参加者ともにイベント自体が笑顔あふれる空間でした。

早くコロナが終息し、このような機会が増える事を祈ります。

